

概要報告

期 日：平成 20 年 10 月 1 日（水）・2 日（木）・3 日（金）

会 場：東京都千代田区永田町 1-1-1 憲政記念館（式典・全体会議ほか）

東京都新宿区市谷本村町 10-5 JICA 研究所（代表者会議）

主 催：財団法人海外日系人協会

後 援：外務省、独立行政法人国際協力機構、独立行政法人国際交流基金、全国知事会、東京都、独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）、独立行政法人国際観光振興機構、日本経済団体連合会、日本商工会議所、海外日系新聞放送協会

参加国：17 カ国 132 名

第 49 回海外日系人大会は、平成 20 年（2008 年）10 月 1 日、2 日、3 日の 3 日間、東京都千代田区憲政記念館、及び東京都新宿区 JICA 研究所において開催された。参加者数は、北・中南米、アジア、ヨーロッパの 17 カ国からの 132 名であった。

1 日の式典は、秋篠宮同妃両殿下の御臨席を賜り、盛大に開催された。2 日の代表者会議には、海外日系団体の代表者が集まり「グローバリゼーション時代に生きる海外日系社会—その在り方と役割を求めて—」を総合テーマに、グローバル社会のなかで緊密化する世界各国、特に居住国と日本の関係や、日系社会と日本とのネットワーク、在日日系人の就労問題、日本語教育、在外選挙権の拡大と充実等について討議を行った。討議の結果は、「第 49 回海外日系人大会 大会宣言」としてとりまとめられた。

大会期間中、参加者は、外務大臣の招待によるレセプション、衆参両議院議長主催による歓迎昼食会等に参加し、多数の国会議員、外交団、政府高官等と交歓した。

大会第 1 日目 [10 月 1 日（水）]

● 運営会議・ユース会議 ●

午前 10 時から 11 時 45 分まで、憲政記念館第 3 会議室において海外日系団体代表者、海外日系人協会役員の参加を得て「運営会議」を開催した。この会議は、海外日系人協会と海外日系社会との連携をさらに密にするため、海外日系人協会の運営に関し、広く海外日系社会の意見を求めることを目的に実施している。

会議では、沢地真海外日系人協会事務局長より、海外日系人協会の運営の現状と課題について説明が行われ、海外日系団体代表者から、「海外日系人協会に求める機能」「海外日系人協会に期待する（自主）事業」「日系団体と海外日系人協会が連携でき得る事業」について意見を伺った。

また、同じ時間帯に憲政記念館第 1 会議室においては、県費留学生、県費海外技術研修員、JICA 日系研修員、日本財団日系スカラシップ留学生らが集まり、「ユース

ス会議」が実施された。参加した約 60 名の留学生、研修員たちは、「ユース会議のさらなる活用を目指して、その在り方について議論すること」を大テーマに、6 グループ 6 テーマに分かれてグループディスカッションを行った。参加者には、参加申し込みがあった時点で日系ユース会議のホームページを案内し、ユース会議の概要、討議テーマなどについて事前に知らせることで会議の効率的な進行を図った。

討議された内容は、ユース会議の目標、ユース会議の具体的な内容、形式、期待される成果、課題、今後の方向性等である。ユース会議の知名度を上げ、より多くの参加者を募ることが必要であり、その結果、若い日系人や日系団体の活動の拡大に結びつくのではないかと結論に至った。また、これらの討議の結果は翌日の代表者会議において日本財団留学生会代表者によって発表された。

● 式 典 ●

午後 2 時 00 分、出席者全員が会場の憲政記念館講堂に入場し、秋篠宮同妃両殿下を会場にお迎えして、式典が開始された。

海外移住先没者に対する黙祷の後、塚田千裕海外日系人協会理事長が開会の挨拶を述べた。次いで秋篠宮殿下のおことばがあり、殿下は、これまで訪れた海外の各地で移住者・日系人と会い、話を聞く機会があったことに言及し、海外各地において日系人が築き上げてきた信頼と高い評価に対し、「心強いものを感じています」と話された。その後、麻生太郎内閣総理大臣の祝辞（伊藤昌輝海外日系人協会専務理事代読）、橋本聖子外務副大臣の祝辞と続き、参加者総代として、上原幸啓ブラジル日本文化福祉協会会長が答辞を述べた。

麻生総理大臣は祝辞のなかで、若い日系世代の活躍について触れ、「日本政府として、これらの若い世代を含め、幅広い日系人の皆様方と連携を強化していきたい」との抱負を述べた。また、上原会長は、6 月にブラジルで行われたブラジル日本人移住 100 周年の記念式典が成功裡に行われたことに対する感謝を述べるとともに、グローバル化、ボーダレス化、そしてデジタル化の進む現代社会において、今大会は、互いに顔を突き合わせて意見を交換し、理解しあう「アナログ」的手段の交流がいかに大切かを再認識するよい機会ではないかと結んだ。

式典の最後は、紀子妃殿下への花籠贈呈で華やかに締めくくられた。西脇浩子（アメリカ）、中村パトリシア（ペルー）、福島エリ・オデット（ボリビア）、山下順子モニカ（パラグアイ）、黒沢志賀子（ブラジル）、エーガン・タイラ・バネッサ・イザベル（アルゼンチン）、中村悦子（オランダ）、チッペルレゆり（オーストリア）、オークス直美（オーストラリア）、矢野テレザ三重子（ブラジル）の皆さんが花籠にばらの花を挿した。最後にブラジル在住の矢野テレザ三重子さんが代表して壇上に進み、この花籠を紀子妃殿下に手渡した。

2 時 45 分、秋篠宮同妃両殿下がご退場になり、式典の部は終了した。

なお、式典に先立って、秋篠宮同妃両殿下に対し、塚田千裕海外日系人協会理事長の同席のもと、武井貢（ブラジル）、武井マリア幸江（ブラジル）、竹内浩之（ベネズエラ）、島田栄（フィリピン）、荒田繁子（アメリカ）、中村悦子（オランダ）、松本アルベルト（アルゼンチン）の 7 名がご面談した。

● 全体会議 ●

午後3時00分からの全体会議は、沢地真海外日系人協会事務局長の司会進行のもと、議長団に藤村修衆議院議員、伊藤昌輝海外日系人協会専務理事が選出されて行われた。

深田博史外務省領事局長、松本有幸 JICA 理事による挨拶に続き、塚田千裕海外日系人協会理事長が海外日系人協会の事業報告を行った。そして、翌2日に開催する代表者会議で採択される「大会宣言」を、本大会の「大会宣言」とすることが承認された。

引き続き、海外日系新聞放送協会が海外で発信する日本語メディアを対象に実施している第9回海外日系新聞放送協会賞の授与式も行われた。10社16件の応募作品のなかから、同大賞はブラジル・ニッケイ新聞の企画「日伯友好の礎 大武和三郎～辞書編纂と数奇な生涯～」、キャンペーン・企画・連載部門はシアトル・北米報知の「戦争に終わりはあるのか」、ニュース部門賞は Bridge USA の「再開発計画に揺れる2つのコミュニティー リトル東京の憂鬱とコリアタウンの希望」、努力賞にはロサンゼルス・羅府新報の「障害児の親になって」が、それぞれ受賞した。

その後、第5回海外日系文芸祭賞の授与式が行われ、応募2,000作品のなかから、同大賞を受賞した武井貢さん（ブラジル在住）をはじめ、上位入選者が表彰された。

● アトラクション ●

休憩を挟み、4時30分からは大衆演劇一座の響ファミリーによる公演「響ファミリー・ショー」が行われた。リーダーである響彬斗さんと、実弟の一真さんは、共にブラジル日系3世。子どもの頃から日本舞踊や三味線、和太鼓などに親しみ、現在は活動の場を日本に移して大衆演劇の世界で日本とブラジルの文化交流を目指してがんばっている。今年6月にはブラジル日本人移住100周年の記念パレードにも参加し、凱旋帰国を果たしている。

ステージでは、女形をはじめとした華やかな演出やポルトガル語を交えたトークで会場を大いに盛り上げた。

● 海外参加者交流・歓迎会 ●

午後5時30分からは、塚田千裕海外日系人協会理事長主催の大会参加者交流・歓迎会を憲政記念館会議室で開催した。

塚田理事長による挨拶の後、来賓を代表して藤村修衆議院議員の祝辞があった。その後、参加者を代表してパン・アメリカン日系人協会ロサンゼルス林レオ副会長が挨拶し、後藤博子前参議院議員による乾杯のご発声が行われ、玉澤徳一郎衆議院議員他、来賓多数の参加のもと、国内・海外の参加者約300名が交流を深めた。

大会第2日目 [10月2日 (木)]

● 代表者会議 ●

午前9時30分より、JICA 研究所国際会議場において、代表者会議を開催した。参加者は海外・国内合わせて約130名であった。

会議のはじめに、塚田千裕海外日系人協会理事長が主催者挨拶を述べ、続いて外務省より八重樫永規領事局政策課長、JICAより蔵本文吉中南米部長がそれぞれ挨拶した。出席者及び海外代表者の紹介の後、海外代表者から富田いくこ（アメリカ）、松本アルベルト（アルゼンチン）、二宮正人（ブラジル）の各氏、および海外日系人協会より新実慎八常務理事が議長団として選出され、必要に応じ英語、スペイン語、ポルトガル語の通訳を行いながら次の6テーマについて議論を行った。

1. 緊密化する世界各国、特に居住国と日本の関係
2. 重要性増す日系社会と日本のネットワーク、互恵関係の強化
3. 日本文化発信強化としての日本語教育の重要性—北米・中南米地域の日系社会の基盤とつなげる
4. ますます必要となる日系人の在日就労
5. 在外選挙権の拡大と充実
6. その他

特に、日系人の在日就労についての討議では、本大会では初めて、日本で生活する日系人3名が参加した。19年前に来日し、デカセギを経て、現在神奈川県で土木・建設業の会社を経営しているブラジル出身の茂木真二さん、両親に連れられて小学生5年生のときに来日し、日本での生活や学校での校則などに苦労しながらも公立高校に進学、現在名古屋国際センターの多文化共生嘱託職員として勤務しているブラジル出身の島野パトリシアさん、そして同じく両親に連れられて小学4年生のときに来日、当時は日本語もできず、ガイジンとして特別扱いを受け、疎外感や屈辱と闘いながらも必死で勉強し、現在は国際基督教大学で学ぶブラジル出身の柳瀬フラビア・智恵美さんが、それぞれの実体験をもとに、在日日系人就労者とその子どもたちが置かれている状況についての報告や提言を行った。

会議で討議された内容は、議長団によってとりまとめられ、「大会宣言」として採択された。

代表者会議終了後には同研修所会議室において記者会見を行い、採択された大会宣言について、議長団が発表をおこなった。記者会見には、毎日新聞、NHK放送文化研究所、サンパウロ新聞、羅府新報、ジャパントイムズ、朝日新聞、共同通信の7社が参加した。

● 外務大臣主催レセプション ●

午後6時30分より、外務省飯倉公館で外務大臣主催の海外日系人歓迎レセプションが開かれた。中曽根弘文外務大臣が歓迎の挨拶をし、金森デニスハワイ日系人連

合会会長が謝辞を述べた。参加者は、国会議員や参加国関係外交団らと1時間半にわたって交流した。

大会第3日目 [10月3日 (金)]

● 視察研修 ●

午前9時00分、憲政記念館に集合した各国参加者は、憲政記念館展示室を見学した後、3台のバスに分かれてNHKスタジオパークを訪問。約1時間をかけて体験スタジオ等を見学した。

その後、憲政記念館に戻り、衆参両議院議長主催の歓迎昼食会に参加した。歓迎昼食会では、河野洋平衆議院議長、江田五月参議院議長がそれぞれ挨拶し、嶽釜徹ドミニカ日系人協会会長が参加者を代表して答辞を述べた。衆議院より、河野洋平議長をはじめ、塩谷立文部科学大臣、遠藤乙彦、河野太郎、石田祝稔、竹下亘、東順治、森山真弓、藤村修、川内博史、参議院より江田五月議長をはじめ、山東昭子、池口修次、小川勝也、榎葉賀津也、岡田広、磯崎陽輔、川合孝典、鈴木陽悦（以上敬称略）の各議員が出席し、参加者と懇談した。

午後はバスでJICA横浜に移動した。JICA横浜高井正夫所長より歓迎の挨拶を受けた後、海外移住資料館を自由に見学。16時30分に東京駅へ向けたバスに乗ってそれぞれの帰路についた。

以上で、第49回海外日系人大会は3日間の公式スケジュールを全て終了した。

以 上